

**子ども一人一人が輝く教育活動を目指して
～人間関係形成・社会形成能力を高める授業のあり方～**

日置市立湯田小学校

1 研究のねらい

キャリア教育の基礎的・汎用的能力の一つである「人間関係形成・社会形成能力」を高めるための授業実践を通して、子ども一人一人が輝く教育活動を追究する。

2 研究の概要

本校の教育目標、児童の実態、教師の願いから、キャリア教育を通して卒業時に身に付けさせたい5つの力を定め、具体的な実践を行っていく。

～ キャリア教育を通して卒業時に身に付けさせたい5つの力 ～

- 1 **【相互コミュニケーション】**・・・「人間関係形成・社会形成能力」
 - ・相手のよさを受け止め、認め合ったり、自分の考えを伝え合ったりすることができる。
 - 2 **【あきらめない力】**・・・「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」
 - ・課題が解決できないときは、あきらめずに他者に助けを求めて解決しようと取り組むことができる。
 - 3 **【気付きから学ぶ】**・・・「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」
 - ・人との関わりの中で、自らの気付きや他者の言動を、次に生かすことができる。
 - 4 **【自主性】**・・・「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」
 - ・日常生活の中で、仕事を分担し自分の役割を果たすことができる。
 - ・日常生活の中で、自分からその場に応じた行動をとることができる。
 - 5 **【あいさつ】**・・・「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」
 - ・自ら進んであいさつができる。
- 「あいさつ」・・・「おはよう。」などの日常の挨拶だけでなく、複数人が集まったときの積極的な声かけも含む。

3 研究の内容

教科班と学級活動班に分かれて、キャリア教育を通して卒業時に身に付けさせたい5つの力が身に付くための具体策を提案し、全職員で実践していく。

教科研究班の手立て	学級活動班の手立て
手立て1 【新しい生活様式を取り入れた授業】	手立て1 【思いを表現する場の工夫】
手立て2 【「発表話型」と「きき方・話し方名人」の活用】	手立て2 【児童同士の思いをつなぐ工夫】
手立て3 【「気付く」「つながる」「生かす」を意識した指導過程の工夫】	手立て3 【合意形成を図る工夫】
手立て4 【グループ活動の工夫】	手立て4 【学んだことを次に生かす】
手立て5 【はかせタイムの工夫】	手立て5 【話合いの経験を生かす工夫】
	手立て6 【身に付けさせたい力を意識させる工夫】
キャリア教育を支える実践	
夢づくりファイル（キャリア・パスポート）	フューチャーミープロジェクト（高校説明会）

4 研究の実際

- (1) 『相互コミュニケーション力』を高める基礎となる「聞く」「話す」態度の育成を図るために「発表話型」と「きき方・話し方名人」を活用している。

発表話型

発表のしかた

- わたしは、...だと感じます。
- その理由は、...だからです。
- わたしも、△△さんと同じです。
- それは、...だからです。
- わたしは、△△さんと同じで、...と感じます。

△△の意見につけくわえます。それは、...です。

● ほかに、あります。

● それは、...です。

● △△さんに質問があります。

...は、どういふんですか。教えてください。

(2) 本研究のキャッチフレーズ「気付く」「つながる」「生かす」を視点として、以下のように、指導過程の工夫を行った。また、身に付けさせたい力を明確にして、授業を行っている。

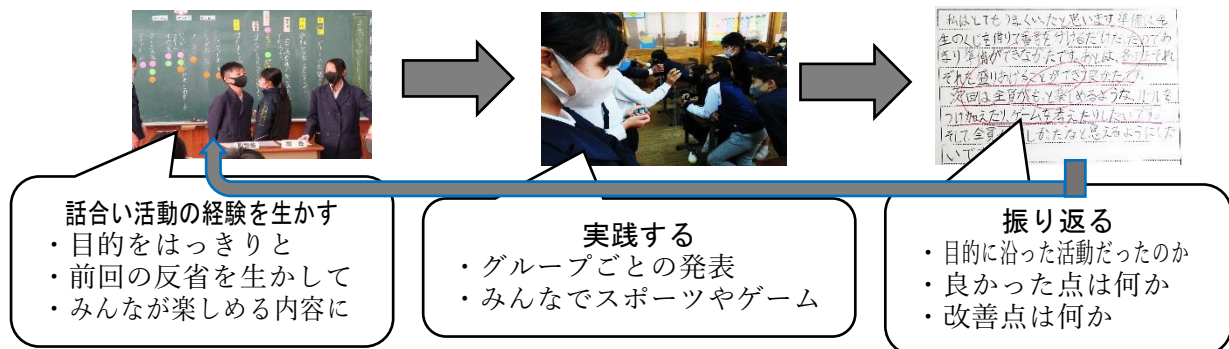
過程	視点	内容	身に付けさせたい力
「考える」	気付く (一人で)	自力解決の場面では、自分の力で解決しようとする気持ちを育て、解決に向かう自分のよさに「気付く」。	【自主性】 【あきらめない力】 【気付きから学ぶ】
	つながる (みんなで) (まとめる)	ペア・グループ・全体での話合いの場面では、お互いが自分の意見を伝え合い、よりよい考えを見つけていくことで「つながる」。	【相互コミュニケーション】 【あきらめない力】
振り返る	生かす	授業を振り返る場面では、次の学習や生活に「生かす」。	【気付きから学ぶ】

(3) 学級活動における話合い活動を通した「人間関係形成・社会形成能力」を高める工夫を行っている。

- ① すっきりタイム・・・進行表を活用しながら小グループで自分の意見を出し合う。
- ② なるほどタイム・・・意見を比較し、賛成意見を出したり、心配事やアイデアを出し合ったりする。
- ③ まとめるタイム・・・「折り合いの花」を生かして合意形成を図る。

(4) 「〇〇会をしよう」(共通実践)

話合い活動の経験を生かしていくために、学級の実態に応じて学期末に「お楽しみ会」「お別れ会」「ミニスポーツ大会」などを実施している。



5 研究のまとめ

(1) 成果

- ・ 相互コミュニケーションの場を設定することで困ったときにも友達とつながり、あきらめずに解決しようとする姿が多く見られるようになった。
- ・ 発表話型の提示やはかせタイムの工夫により、話合いをスムーズに進め、お互いの意見からよりよい考えに練り上げることができるようになってきた。
- ・ これまでのキャリア教育について見直し、多様な展開を考え実践することで、私たち教師自身の意識改革へとつながった。

(2) 課題

- ・ 小中連携を深めることで、系統性のあるキャリア教育の充実を図っていきたい。
- ・ 学校や学級だけでなく家庭や地域社会の繋がりの中でもキャリア教育を推進していきたい。

6 今後の取組

作成した指導過程を全教科で活用したり、学級活動における話合い活動の工夫を継続したりすることで、児童の「人間関係形成・社会形成能力」をより一層高めていきたい。また、小中の連携を深める手立ての一つとしてキャリア・パスポートの活用を充実させていきたい。